



明治期の地域振興

まへだまさな

～前田正名が果たした役割



前田正名の揮毫皿（香蘭社所蔵）

いつの時代も地域の産業振興はとても大切な、そして難しいテーマの一つです。昨今、国は全国の自治体に地方版総合戦略の策定を実施させていますが、その先駆者として明治期に旧薩摩藩士だった前田正名（1850～1921）が*松方デフレに異を唱えて農商務省を下野し、全国を行脚して地域創生を唱えたことはすでに忘れかけられています。

実はこの前田正名という人物は、この有田焼400年の歴史に於いても多大な功績を残していて、それが今に息づいています。（館報No.39参照）

前田正名が地方創生、つまり国が栄えることを強く思ったきっかけは、明治2年（1869）、19歳で留学したフランスで勃発した普法戦争でした。日本人でありながら自ら進んで義勇兵となったものの、フランスの負け戦を目の当たりにして敗戦国の悲惨さを経験した彼は終生熱烈な愛国主義者となったといわれています。明治11年（1878）のパリ万国博覧会に政府の事務官長として派遣された前田は、国産品を海外に紹介するとともに、帰国後は直輸貿易意見を盛んに発表して当事者の啓発に努めました。この万博には有田から八代深川栄左衛門も参加していますから、前田と深川はこの折に出会い、親交を深めていったのかもしれませんが。そして明治維新以来、外形的には体裁を整えつ

つある日本が、その内面の経済力が極めて貧弱であることを知悉していた前田は、国力の充実の急を叫びました。明治27年（1894）には伝統産業を重視し、外国を相手に誠実に有利に商売をすることを目的として全国組織の「*五二会」を発足させました。

前田が有田を訪れたのはその前年の明治26年（1893）6月11日で、白川にあった勉脩学舎で日本工業の変化や外国との比較、京都や瀬戸などの窯業の実態に触れ、有田は窯業にもっと積極的に取り組むよう話したといわれています。

同29年（1896）2月29日、佐賀県陶磁器品評会の会頭に前田正名、副会頭に高須欽、事務長に九代深川栄左衛門が決まり、その品評会が3月1日から有田町の古刹・桂雲寺を会場として始まり、それが今に続く陶器市（現在の有田国際陶芸展）の歴史でもあります。

ある時、軍神といわれた乃木希典將軍は「戦争に勝ちさえすれば強国の実が挙げると思っていたが、それは大違いで一にも金、二にも金、経済力が伴わなければ強国の実を挙げることが出来ない」と気づいて前田を訪ね、五二会とは何であるかを問うたといわれます。

100年前に前田正名が生涯を賭して訴えた、政府主導ではなく下からの地域振興は、果たして平成の世で結実していくのでしょうか。（尾崎 葉子）

メモ

- *松方デフレ 西南戦争による戦費調達で生じたインフレーションを解消しようと、大蔵卿松方正義が行った、デフレインフレ誘導の財政政策（デフレ不況）のこと
- *五二会 織物、陶器、銅器、漆器、製紙の五品に彫刻、敷物を加えた伝統的な輸出工芸品七業者の団体。

皿 季刊 山

No.111

秋
2016

有田町歴史民俗資料館・館報

有田異人館の保存修理工事が 間もなく完了します

有田町教育委員会では、平成26年度から佐賀県重要文化財・有田異人館の復原保存修理工事に取り組んでいます。

建物は、文化財建造物としての価値が最も高い建築当初（明治9年／1876）の姿に甦らせていますが、建築当時の図面や写真などの史料が少なかったため、本格的な保存工事を行う前に一旦建物を解体し、大学の先生や設計者などの文化財建造物に携わる専門の方々により、建物の痕跡（部材やほぞ穴など）などの確認調査を行い、慎重に検討・協議を重ね、保存修理の方向性を定めながら工事に取り組んできました。

現在（8月下旬）までのところ、建物の外観はほぼ完成しています。白漆喰の外壁にうすい緑のペンキで着色した列柱やベランダなどは、当時の洋館の特徴が現れており、隆盛を極めた明治初期の頃の田代家や有田の様子を思い浮かべることができるのではないのでしょうか。

有田焼創業400年の節目となる今年、10月中旬に保存修理工事は完成する予定ですが、完成と同じ頃に、トイレなどを備えた別棟の建物（古写真を基に蔵を復原）を建設したり、展示に関する準備を進めていくため、一般公開の開始は、平成29年4月を予定しています。

正式な開館までは、しばらくの間、時間を要することになりますが、完成直後の10月下旬頃、内部を含めた一時的なお披露目を1週間程度行なう予定です。日時などの詳細につきましては、400年事業の「有



田まちなかフェスティバル」の広報などを通じて、改めてお知らせしたいと思っています。

※有田異人館について

明治時代に有田焼の買い付けに訪れた西洋人をもてなした建物で、県内で最も古い擬洋風の建築物です。昭和52年3月11日、佐賀県重要文化財に指定されています。

有田異人館は、佐賀藩から許可を得て、一時期有田焼の貿易を独占していた豪商・田代紋左衛門の子息・助作すけさくによって、明治9年（1876）に建てられました。寄せ棟造りの木造2階建てで、スタンドグラスやらせん階段がある一方、畳や和紙を使った和洋折衷になっています。

建築当時は、有田焼が欧米の万国博覧会に出品され、輸出が盛んだった時期で、田代家に残された文書資料にも、外国から来た商人が宿泊した記録があります。もともとは外国人をもてなすために造られた建物ですが、年月が経つと、だんだん外国人をもてなす事が少なくなっていくようになり、田代家の方などが住むために使用するようになってきました。建物の痕跡調査などを進めていくと、昭和の時代などに増改築されていたことが確認されていますが、今回の保存修理工事では、増改築部分を取り除き、失われた部分を復原しています。（池田 孝）

「有田の町屋 模型作り教室」開催

今回で16回目となった「有田の町屋模型作り教室」を8月22日(月)、23日(火)の2日間にわたって、有田町役場東出張所の2階を会場とし開催しました。



今回は10人の参加者でした。今年は前年までと少し方法を変え、上記で紹介したように、今年の秋には工事が完了する異人館を縮尺も50分の1という大きさを挑戦してもらいました。

今回の参加者は次の通りです。

- ・蒲原 悠希くん（有田小学校5年生）
- ・秀 成巧くん（中部小学校4年生）
- ・原口大吾郎くん（中部小学校5年生）
- ・山本ころろさん（中部小学校6年生）
- ・川原 夕佳さん（中部小学校6年生）
- ・室永 周里くん（中部小学校6年生）
- ・島田 虹星くん（中部小学校6年生）
- ・淵 太吾くん（中部小学校6年生）
- ・村山 幹也くん（曲川小学校5年生）
- ・中島 穂香さん（大山小学校6年生）

平成28年度企画展

「有田の群像 ～ 400年の歴史を紡いだ人々」

皆様よくご存知のように今年是有田焼創業400年です。この400年という気の遠くなるような時間の中で、有田に生きた、あるいは有田に深く関わった人々が有田に与えた影響、功績などをさまざまな資料で紹介します。

- ・ 佐賀藩の人々
- ・ 多久家と有田の関係
- ・ 歴代皿山代官
- ・ 江戸時代の有田に生きた人々

以上のテーマごとに資料や写真パネルなどを展示する予定です。

ただ、江戸時代の有田皿山を物語る資料はそれほど多くないというのが現状です。そういう中で、先人が残した言葉や資料を通じ、これからの有田の未来を考えていただく一助となれば幸いです。

展示資料

豊臣秀吉肖像画
鍋島直茂肖像画
安政六年松浦郡有田皿山大樽山竈人別改帳 など

- ・ 期 日 平成28年11月19日(土)～
12月18日(日)
午前9時～午後4時30分
- ・ 場 所 泉山 有田町歴史民俗資料館
- ・ 入館料 無料

※期間中の11月19日(土)と20日(日)は午後6時から8時まで夜間開館と周囲の紅葉のライトアップを実施します

※期間中、11月30日(水)に有田町公民館と共催で町内の史跡探訪会を開催します(時間未定)

有田町歴史民俗資料館を支えていただいている “れきみん応援団”の活動紹介

平成25年に発足した「有田れきみん応援団」の皆様には、当館あるいは有田町文化財課の事業に関して、職員では不足する場面に多大なご協力をいただいています。

昨年度は延べ292人に展示替え作業や展示解説、それにキャプション作成や問い合わせの英文和訳など、幅広い活動をしていただきました。

今年度も現在15名の方が登録していただいています。現役時代は焼物関係の会社や工房で活躍された方、また精密機械の専門家や海外での生活が長く英語に堪能な方など多彩なメンバーです。他頁でも紹介している夏休み子どもたちを対象とした各種教室には、その準備段階から応援していただいています。

活動に関しては全くのボランティアです。ただ、応援団の皆様は、もっと有田の歴史や文化財などの知識を深めたいという思いも強く持たれています。毎週、れきみん学習会を開催しています。

これまでの学習会では初代金ヶ江三兵衛(通称李三平)や百婆仙を始め、もっと有田の歴史に登場する人物を知りたいという皆様の要望に応えた内容であったり、旧西有田町を中心にあつた炭鉱

のことなどを題材にしました。

また、他館でのボランティア活動を参考にするために研修旅行を行い交流を深めています。9月には佐賀市の徴古館からバス2台で有田の歴史探訪に来町するという連絡を受け、その折の対応もお願いしているところです。

このように、当館にとってはなくてはならない存在の応援団ですが、参加してみようかなと思われ、この応援団の活動に興味をお持ちの方は下記までご一報ください。

電話 0955-43-2678 有田町歴史民俗資料館



7月の「歴史の川ざらいくベンジャラをさがそう」準備で除草作業を実施



歴史の川ざらい ～ベンジャラを探そうを 開催しました!

平成28年7月30日(土)、今回で5回目となった歴史の川ざらいを開催しました。

有田の中を流れる川には、捨てられたり流れ込んだりして堆積している江戸時代からの陶片(ベンジャラ)が残っています。それを採集し、その場で文化財課の村上課長よりいつごろ焼かれたものか、元はどのような形、用途だったかを答えるという形で進めていますが、まず作業をする前に有田皿山の成り立ちやどんなものを採集したらいいかという事前学習を有田観光協会の2階をお借りして説明を行いました。

その後、岩谷川内の白川川まで歩いて移動し、7人の子どもたちと中学生の兄弟も保護者で参加。今回は飛び入りで山口県の女性の方も参加されました。応援団の皆さんにも参加していただき、安全面もしっかり確保して実施しました。

今回は準備の段階から至る所に江戸時代の芙蓉手大皿の陶片や蓋物などが目につきましたが、当日は子ども達もお目当ての江戸時代の陶片を見つけて、川の中には歓声が響いていました。



ただし、これら陶片は貴重な文化財でもありますので、子どもたちは持ち帰ることはできません。後日、その陶片が持つ情報、例えば元々の形や制作年代などをまとめて子どもたちに届けました(写真下)。何気ない陶片が貴重な文化財の一つであること、さらに町中に残る有田の歴史を再認識してもらいたいと思っています。

今回の参加者は次の通りです。

- ・正司 浩大くん(有田小学校2年生)
- ・蒲原 捺希さん(有田小学校3年生)
- ・正司佳桜子さん(有田小学校5年生)
- ・南 怜井也くん(中部小学校4年生)
- ・内田 悠翔くん(中部小学校4年生)
- ・井手 彩樺さん(中部小学校4年生)
- ・川原 実姫さん(曲川小学校4年生)
- ・宮本 光代さん(山口県)

平成28年度 有田町歴史民俗資料館主催「歴史の川ざらい～ベンジャラを探そう」 7月30日(土)

ぼく・わたしがひろった「ベンジャラ」は……??




ベンジャラの名前: 染付花唐草文小皿(せめつはなからくさもんこざら)

*ひろった人 / 井手 彩樺
*ひろった場所 / 有田町白川 *作られた時代 / 1630 ~ 40年代

↓
元の形はこんな感じ!! (類似品の写真)




『福田コレクション(Ⅱ)』 福田昭雄(九州陶磁文化館 1991)より転載
九州陶磁文化館蔵

学芸員からのひごとこ

ひろったものは小皿の底面の破片で、内面には花や草っぱのような文様がかかれています。類似品のように、もととは2方向に帯の花がかかってあり、その周縁に唐草文という基から主たる小さな葉っぱの文様でうめられています。ひろった皿は、外側にはなにもかかれておらず、今のものよりずっと幅のせまい茶台が残っています。このように外側に文様がなく小さな茶台の皿は、磁器がはじまった最初の頃に作られたすく古いものです。また今のように薄くつるることができず、磁器なのに白くなくて少し灰色がかかっています。

このような形で届けました



有田工業高等学校より インターンシップで来館

8月9日、10日の2日間で有田工業高校2年生の橋本峻希君、池田寿一君の2名をインターンシップとして受け入れました。先ず出土文化財管理センターと有田町歴史民俗資料館の案内をし、それぞれの建物には何があるのか、何をしているのか説明しました。その後、有田町の窯跡から採集された遺物の整理作業を体験。まず遺物の洗浄を行い、陶片の実測作業を行いました。2日目の午前中は、トレース実測や陶片の写真撮影(裏表)なども行っていただきました。有田町内の窯跡など文化財を見てもらうため、泉山磁石場、天狗

谷窯跡、稗古場窯跡、天神山窯跡、掛ノ谷窯跡、原明窯跡などへ行きました。行ったことのないところが多かったということで、関心を示してもらえたように感じました。また、文化財が山奥や藪の中にあることを実感してもらいました。

季刊『皿山』

通巻 111号 (平成28年9月1日)

編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山1丁目4-1

☎ 0955-43-2678 FAX0955-43-4185

URL: <http://www.town.arita.lg.jp/main/169.html>